

ケアラム錠 ーワルファリン併用時の注意のお願いー

2012年12月
エーザイ株式会社

ケアラム錠（一般名：イグラチモド）は、2012年9月12日より関節リウマチを対象とした特定使用成績調査（全例調査）を実施しております。

12月10日現在、ワルファリンを投与中の患者様に対しイグラチモドを投与し、相互作用が疑われる症例が3例集積されました。

つきましては、下記の点にご注意いただきますようお願い申し上げます。

また、今後の安全対策検討のため、有害事象の有無に関わらず、ワルファリン併用状況や血液凝固能検査に関する情報収集にご協力賜りますようお願い申し上げます。

<報告された症例の概要*>

症例	年齢	性別	副作用名	重篤性	転帰
1	80 歳代	男性	穿刺部位出血、結膜出血	重篤(入院)	回復
2	50 歳代	女性	国際標準比増加 (PT-INR 増加)	非重篤	軽快
3	60 歳代	女性	出血 (歯茎出血、大腿・前腕、臀部の皮下出血)	重篤(入院)	軽快

*現在調査中のため、変更となる場合があります

記

■ 以下の場合、本剤の服用中止をご検討いただくとともに、すぐにワルファリン処方医の診察を受けるようご指導ください。

- ・点状出血斑、紫斑、皮下出血、鼻出血、歯肉出血等の症状があらわれた場合
- ・本剤を併用後、血液凝固能が異常に低下（PT-INR の異常な上昇等）した場合、又は未確認の場合

■ 本剤の処方前に、ワルファリン服用の有無を必ず確認してください。

本剤との併用により、ワルファリンの作用を増強するおそれがあります。
他院、他科からのワルファリン処方の有無を必ずご確認ください。

■ ワルファリン服用患者に本剤を投与する場合は、定期的に血液凝固能検査結果（PT-INR 等）を確認してください。

以上

<参考> 添付文書より抜粋

【使用上の注意】

3. 相互作用：併用注意

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ワルファリン	ワルファリンの作用を増強するおそれがあるので、ワルファリンの用量を調節するなど注意すること。	機序不明